

共三十本

農事部十冊 自第廿卷
至第卅卷
五穀部六冊 自第廿五卷
至第卅卷
菜蔬部十冊 自第卅一卷
至第四十一卷

圖說

農

144

特別
二 |
144
1



全部百卷

上梓三十卷

成形圖説

薩摩府學藏版



成形圖説提要

一夫凡天地の物と生じ形と成るとの、申みて人と靈と
 と其人を養ふとの、最切要ふると穀帛とし菜肉とし
 藥物とし故に樹藝の道と教るあり先あるハ哲しえり
 れども六合の大地の海の廣さも生じるとこ海の物
 目撃する事河の流るるに如く今此稱呼を通じ南北の動植と
 あるべきを執らば古今に於て其名實を詳しむるに
 辨し其性味の能否を志する事と如んやこ是本草名物
 の學因て起るところあり吾
 太公偃聽の曰民を教へて農桑と勅め更に桑園署と設

成形圖説提要

門一 /
 號 / 44
 卷 /

けて度く有用の楽種と致し来し其產地各異同と審み
し其時候の先後と考へておのく其ものとして生成の
功と遂志むる事と好むをわらば天意を隨ひ民事を
急みし終ふがゆゑなり又園庭を試み植るとして此州
卉樊籠を馴養ふとて海鳥羽毛より海船の傳ふるとこ
流のものに至るまで得るを了るがごとく其真を寫し流
めて以て他日の用と俟つじらし深江輔仁の和名本州
を撰ひ源順の和名類聚鈔と集めしなりこのうゝ楽録
方書の作世と経て絶えど近世稲若水の輩に及びて赭
鞭の述漸く委志く遂みぬれども専門の業とするも

の所り志られども唐山和蘭等此地に出る物ハ
本邦此稱謂と同じくらばこれとてられも充てども
素より當らざるものあり我よりて彼よりて彼より
ありて我よりわらざるもまた少からば我と彼とを
に所りて其名と志れども其物を志る所り彼より
買て我より買とて其似るものにて強て充てむるも
實相乖して其弊恐らくは人とそこふし物をやぶるも
至るものあらん吾
太公深くくくも憂へて 臣曾繁臣白尾國柱等の數人
命して大に品物を索めてこれと類聚せしむるも

於て嘗て真と寫して花の流ふところ流ありそ地の目睹
とらむものかいさるまで收入して部と分ち殊域の産ハ
蕃籍の圖載ハ臨摹し毎品おのく其説と著ハと書成て
一百卷題して成形圖説と名づく今これと梓ハ浸バめ
て 藩中ハ布く是童蒙といへども九穀の種獲採収及
び百薬の粹戾良毒を分別して救餓濟急の法方と云ら
志じ事と欲らむのこ是吾
太公人を愛くしと民と憫むの盛意ありて此篇の第一
義あり

一名物の書多くハ波と称して雅名とし錢と呼で俗称と

と名義倒置といふべし其既ハ其辨あり今此篇ハ我と
先よりして波と後とと云われが我の名物ハ古言に
し俗語ハ達せざれば其義と曉しづし加ふ國史家牒
子載て其根據あるものハ各條子書目と標し又竊ハ私
案と記して意義を訓釋と其源委の檢閲ハ晦おく其偽
の疑似ハ涉るとの如姑く闕て以て後と後つお名と志
らばといへども其功用的著るべきものハ方言俚語と
とて表出し我ハ育せざるものは漢名と以てし蕃語と
以てし其蕃語ハ係るとのハ 臣堀愛生等が譯とらむとこ
ろを登載と

一いふしゝの名称いふ國音として行ハ其後其多クハ字
 音子聲を故小古今の稱呼雅俗相混じりとのをくふり
 らど鶴鴿を仁波久奈布利と呼ぶハ古の雅名にしてこ
 邊を伊志多々伎と呼び又轉して字音子呼ぶがごとく
 ハ別條の俗稱あり梅と字米といひ馬と字麻といふを
 古言にして年米年麻といふハ今言あり又骨蓬ハ加波
 保福あり後に川骨の字と填わしあり竟小字音子呼て
 漢語小監意意蘭春菊仙翁花九蓋艸の類ハもどあり如
 名ありて亦漢語に類を又桔梗キキョウ紫苑ムラサキ胡蝶フタバタ芭蕉ハセガの屬ハ漢
 音と轉して其讀和語に似たり或ハ海松と字美麻通と

稱と蛇牀と反備年志呂と稱するハ是と文字讀といひ
 あるいは女郎ウメノハナ花神ハナノカミ馬藻ウマノモのごと記名是と義訓といふ或
 ハ玉蜀黍トウモロコシと唐黍タウキと呼び蓮レンと唐蓮タウレンと呼ぶハ方言の他
 譯ありサカキ榊サカキ鶺鴒セウリョウ鶉チウ等の字ハ二合して義と取そのか
 里且正名といふごとく其人通しておきくさばそのけお
 のおのそ俗子位ひ毎字訓譯と添くそ糧碎と採りらば
 凡物も名づく大抵其像貌性味利用時節等も縁あり
 又唐音韓語梵音蕃語として行つるものありくのご
 とくあるハ皆其類下も附注を
 一凡 藩中といふごとく南北の風氣同くらば水土亦隨て

異あり故に其耕種時令並材料利用の程一定あり況や
各國の制都鄙の俗これと四方に諮詢し旁通曲成して
以て造るべしとつゝを斯篇の考らとをる所あり況を
疎漏と評することあり

一和漢引書の例ハ古今異論なく通知し易きものを
其確證一條と出して繁引重贅を種別區別に至て
ハ同見し語はと裒集を古今とわづり衆議の決定せし
るものも漫りて識やん草木の類ハ姑く程順則が質問
の説と好きて旁ら中山に程順則といふものあり
産のいふとて度々探りて名実常否のいふまじき
ざるものありは花腊葉貼あるの根實を曝乾し

且其真と寫し生熟時候を記し唐山五市の徒に託して
彼地の巨儒高賢の箋志を継ぐ者ありて疑を其答簡に取
に此の叙百品と得るにむねりて遂に長崎に來れる清高の
俗稱とを擇り載るの偶異論ありて後の考に依ふべ
きものありば纂録して遺さば固より荒唐無稽に
係るものハ措てとらば凡群籍中に引用せし書を先其
本書と引て後其書名と引きたと一也和名水州に兼名
苑と引太平御覧に范氏計然を引といふの類是あり唯
本草に引用せし書ハ本草の目と省くのをとおくを同
條に足えざるが有る

一凡品物を風土の寒燥地勢の燥湿を考らひて性の厚

香味の濃淡おのづから新しきも地通を好むとの
 と擇ひ用北を效驗殊多し其主療のごと記る本草を
 載るとこ既詳あり志られども多くハ一定の説か
 し今これと裁擇するに違つて和漢の書に選用する
 とこ此の單方のごと記るおのく其君藥の條下に記し
 又植生の幹葉花実含靈の磷甲骨肉の一體にして其
 呼と分ち別柔緩急用と殊に補泄寒温性を異にする
 とのハ一條中に分釋せられども各條皆これに
 ありあはれ

文化元年甲子十一月朔且

臣曾槃謹記

成形圖說卷之一

目錄

- 農業 ナリハヒ
- 農神 ウカミミタ
- 農師 アモノムラサキ
- 農夫 オホシタカラ

成形圖說卷之一

農事部 農桑 大意

欽惟テフ不フ

太祖オホミヤ天地アメノチ

國クニ一ヒト極ミタラ立タテ

二フタ靈ハレ復ラ陽マ也ヲ

體カタク一ヒト教ヲシヘと定サダメむハい

天照日御神アマテラスヒノミカミ始ハジメて天アメ下ノ君キミ

臨ミむハひテ天津日嗣アマツヒヒコ乃ハ疆キマリなく紹ウケ統ス一ヒト御ミ皇ミコ國クニをミ造ツクらハい

とトとトかカ一ヒト其ソノ人ヒト物モノをミ母ハハとト忠チカ貞ニ五イヒ穀コをミ今イマもモ良ヨシ茂シ也ナリ

異ヒ邦クニもモはハむクもモさサりシはハむク改カとト奉ホウ事ジもモ天アメ皇ミコ一ヒトもモ

皇ミコ天アメのノ理リもモ奉ホウ順ジュンとト私シ己ミもモあアるルふフとトなナくク天アメ國クニをミ治シ

むムふフ乃ハ道ミチをミ治シてテ事コトはハ祭マツリりリ大オホさサるルハハなナきキもモ因ユてテ

其名とおれじう寸其祭は 皇祖の始て斯国と授る所
 民と生玉いし恩頼に報し其分の道なるをかくて道
 ハ教弘く立教ハ貴く由く成乃る所ありあまは人君乃
 国と治め民を安んず其地政ハ必し衣その食その急
 とハと分ちめりて去り阿達ハ農と桑とはそ下の先務
 かして祭政の大存也とりて古者 天照大神天
 位ハ臨御群元と統統玉つる初子皇弟に詔して先農保
 食神耕播の方と觀察玉いしそ其形體に就く農
 業示されし其言を謂保食神乃頂に牛馬生を以て宇之と
 宇麻とハ並美しむるの稱として二者ハ農と助乃尤者なる也

ハ最初に其祭を造りて其地ハ地ハ高き畜山野
 と以て又謂顛に粟生る眉上は蠶生る眼中は稭生る腹
 中ハ稲生る腹は及大豆小豆生る顛ハ日當也粟ハ
 高仰壇燥とらるる宜し眉上ハ向陽の山に象は蠶ハ是
 山蠶小して暖氣を好むと喜む眉齒河回し養を桑とて
 次桑は食葉を眼ハ日と火と得て明なる稭ハ夏日乃
 炎陽に成そのを腹ハ原と河おれし廣く平に飲食の
 存あり稲ハ土と水と平に熟る田に植るとして稭ハ獲
 溼の地は礫を麥大豆宜しとて其片を於是粟稭
 麥豆といふ陸種と稲といふ水種と又口の裏に繭

と舎^{イハ}と絲^{イト}縑^{シヨウ}と^ト紙^{カミ}は^ハなり^{ナリ}夫人^{フじん}の^ノ世^ヨに^ニ在^アる^ル衣^イき^キ儀^ギて
 倉^{クラ}の^ノ固^コ毎^ヘて^ハハ^ハの^ノ産^{サン}を^シて^ハ便^{ベン}是^シより^モ前^マに^ニ
 既^イに^ニ種^{タネ}産^{サン}靈^{レイ}と^シて^ハ五^ゴ穀^{コク}と^シて^ハ生^ナる^ルに^ハめ^メ蠶^サ桑^{サウ}と^シて^ハ出^デる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ
 又^マた^ハり^マる^ルに^ハ苗^{メウ}根^{コン}と^シて^ハ肥^ヒ壅^ウを^シて^ハ繭^サ絲^シと^シて^ハ編^ヘ織^シと^シて^ハ善^{ゼン}也^{ナリ}
 可^カす^ル大神^{オホカミ}は^ハら^ハぬ^ルに^ハ術^{ジュツ}と^シて^ハ民^{タチ}に^ハ布^フ告^コて^ハ之^レを^シ裁^{サイ}成^{テイ}と^シて^ハ
 と^ハは^ハえ^ルに^ハ吏^リ五^ゴ穀^{コク}ハ^ハ人^ノの^ノ以^ヨ湯^{トウ}と^シて^ハ救^{クウ}ひ^テ繭^サ絲^シハ^ハ人^ノの^ノ温^{オン}
 涼^{リョウ}に^ハ務^ム牛^ウ馬^バハ^ハ人^ノの^ノ力^{リキ}役^{ヤク}に^ハ代^{ダイ}ふ^ル保^ホ食^{シキ}神^{カミ}ハ^ハ生^ナる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ
 て^ハ能^ノ織^{オリ}縑^{ハヒ}の方^{カタ}と^シて^ハ知^チる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ乃^ノち^チお^オと^トす^ル大神^{オホカミ}は^ハ
 曲^{マク}言^{ゴン}へ^ルる^ル所^{トコロ}謂^{イハ}ふ^ル天^{テン}人^ノの^ノ道^{ミチ}と^シて^ハ合^アは^ハる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ乃^ノち^チお^オと^トす^ル
 然^{シカ}と^シて^ハ乃^ノち^チお^オと^トす^ル特^{トク}に^ハ天^{テン}使^シと^シて^ハ遣^{ツカ}は^ハる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ乃^ノち^チお^オと^トす^ル大神^{オホカミ}は^ハ

と獲^エる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ乃^ノち^チお^オと^トす^ル農^{ノウ}殖^{シキ}と^シて^ハ獸^{シム}謀^{ボウ}又^マ躬^{コウ}齋^{サイ}服^{フク}と^シて^ハ織^{オリ}縑^{ハヒ}と^シて^ハ
 皇^{ミコ}是^シ蓋^{カシ}我^ガ 皇^{ミコ}國^{クニ}農^{ノウ}桑^{サウ}の^ノ原^{ハラ}に^ハて^ハ王^{オウ}道^{ドウ}の^ノ始^{ハジメ}なり^{ナリ}於^ア戲^キ
 人^{ヒト}ハ^ハ食^シと^シて^ハ天^{テン}と^シて^ハ食^シは^ハ人^ノ生^シの^ノ命^{イナヒ}に^ハて^ハ國^{クニ}の^ノ國^{クニ}
 心^{ココロ}所^{トコロ}以^ヨ其^ノ是^シより^モ大^{オホ}なる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ今^{イマ}夫^レ民^{タチ}に^ハ四^シ等^{トウ}あり^{ナリ}謂^{イハ}ふ^ル
 士^シ農^{ノウ}と^シて^ハ工^{コウ}高^{カウ}く^ルに^ハ四^シの^ノ民^{タチ}に^ハて^ハ其^ノ職^{シヨク}に^ハ急^{オソク}む^ル或^オハ^ハ四^シ乃^ノ
 民^{タチ}に^ハあ^ハら^ハぬ^ルに^ハめ^メを^シて^ハ遊^{ユウ}食^{シキ}民^{タチ}と^シて^ハ威^キ威^キ君^{クニ}主^シに^ハて^ハ其^ノ祭^{サイ}政^{テイ}
 に^ハ急^{オソク}む^ル官^{カン}吏^リに^ハて^ハ其^ノ事^{コト}務^ムに^ハ急^{オソク}む^ルに^ハめ^メを^シて^ハ四^シ民^{タチ}と^シて^ハ治^チる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ
 何^{ナニ}と^シて^ハ亦^オお^オれ^ルに^ハて^ハ急^{オソク}む^ル者^{モノ}唯^{タビ}之^レと^シて^ハ下^ゲに^ハて^ハ
 之^レ責^セて^ハ上^ウに^ハて^ハ責^セる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ解^{トク}と^シて^ハ上^ウ愈^イ逆^{ギャク}と^シて^ハ下^ゲ愈^イ勞^{ロウ}
 尚^{ナウ}逆^{ギャク}ある^ルに^ハて^ハ勞^{ロウ}ある^ルに^ハて^ハ責^セる^ルに^ハめ^メを^シて^ハ命^{イナヒ}に^ハて^ハ勞^{ロウ}ある^ルに^ハて^ハ而^{シテ}

農夫の稼穡はおろし未嘗て寧處に違へば^{イハハ}屋^ハ風^ハ
日と蔽^シ衣糧^ハ凍餒^ト免^レ走^ル力^ハ役税課^ス歳^ノ倍^シ月^ノ
滋^シ且暮^キ使^テ督責^セ嚴^ク役^ハか^レ農夫^ハ急^ク備^フ歎^ス
と^ハ乃^チ乃^チ又^チ士大夫^ハあ^リて各^ノ其^ノ職^ヲ掌^ルふ^ニ志^ス
尸位^ニ素餐^ス何^レも^ハ農^ノあ^リし^カ如^クとい^フは^レば^レや
故^ニ凡^ソ一日^ノ食^ハ當^ル又^チ一日^ノ乃^チ行^クる^ハ倉^ノし^テ苟^モ一日^ノ此^ノ
なき^ハふ^ハ故^ニ安^ク食^ス海^ノき^ニ理^ヲなり^シ國^ノ子^ハ遊^ビ食^ル衆^トも^キ
は^レ米^ノ粒^ノ耗^ス費^スえ^上に^テ多^ク後^トと^テ好^ムめ^ハは^レ用^度匱^乏之^ハ況^ヤ水^ハ旱^シ
疾疫^ハ交^ヒふ^ニ玉^ノ暴^ク征^シ横^ク賦^シ迭^シる^ハ流^ルる^ハも^ハ草^野愕^然と^シ
て^ハ迅雷^トと^テ戴^リが^レご^とと^テ四^方に^テ散^ラ之^メの^ハ幾^禁づ^ク五^穀

も亦^モ從^テ播^クを^テ種^クは^レ是^ニ玉^ノ國^ヲ本^ト立^ベ何^レの^ハ地^ノも^リ
禮^義と^テ正^シ次^ヲ冠^スり^ん抑^ス又^チ早^ク乾^ク水^ノ溢^ルの^ハ災^異何^レも^ハ君^ノ
王^ヲく^ん人^ノ肅^然と^シて^ハ自^ラ省^ミ内^ヲ修^ム天^ノ變^ヲ答^ヘ玉^ノと^シ寸^ノ
ハ^レ何^レ不^レ履^クは^レ禁^中ハ^レ神^殿子^ハ先^ニ農^ヲと^テ配^享ら^ズ且^ハ有^ル
年^ヲ祈^リ凶^凶災^ハ御^キ玉^ノと^シて^ハ其^ノ史^ヲ載^ラま^ス此^レ
先^ニ王^ノ烈^ク聖^ク天^ノと^テ敬^シ農^ヲと^テ重^クと^シて^ハ乃^チ感^意を^テ出^スて^ハ存^ス
報^シ民^トと^シ郵^ノの^ハ王^ノ法^ヲ何^レも^ハ中^ノ葉^ノも^ハ異^ニ端^ニ遊^ス
説^ノの^ハ徒^ラ漸^ク天下^ヲ編^ム民^ノ業^一歩^ノも^ハ革^テ上^下利^ノ歎^トと^シ
競^合し^テ善^相公^ノの^ハ言^ハ我^レ朝^ノ家^ノ神^明統^ヲと^シ傳^ヘ天^ノ陝^ノ疆^ヲ
と^テ開^キ土^ノ壤^ノ膏^ノ腴^ノ人^ノ民^ノ庶^ヲ富^ムる^ハ故^ニ東^ノハ^レ肅^慎と^シ平^ノ帝^ノ北

ハ高麗成條一西新羅と虜ハ一南吳會と臣と一三韓西
蕃と稱して内属一唐宋の使譯於是財と納秦漢華曹こ
れが為し帰化も其志りる所以と原は國俗敦龐民風忠
厚小く其賦税を輕一徵役を爲し上ハ仁と垂て天下誠
收ひ下ハ誠と爲て上と戴き一國の政務一身と治るが
ごとく一故は范史君子の國と稱し隋帝日出の尊と推し
其後繁政怠倦く風化漸く衰へ取彼去此淳樸益散ぬ其
始や 欽明の時佛法初て中土といふ 推古以後
は心誠小くして上ハ羣公卿士より下ハ諸國黔黎におよ
ぶまで舉て資産を頌て浮畜と興造し競く田園と捨く

佛地は投し耕夫と放し寺奴は充り天平に到り亦以爲
窮せしれ蓋は三寶の奴と稱しつらまら其堂宇の崇麗
土功の繁欠賦斂助役此を以て煩重く雲山巨材此が爲
は空瓦く天下の半は過る之は偏重なり於是山澤の氣枯
渴土金の精傷耗て年穀成て其実少く人生て其才既尽
さす蓋は工高僧僧ハ耕人より其を多く又浮浪妓倡ハ工
高より其を多く其は天盖人なりが故に其を虐て原濕と
壑開江海と埋展て程と衣食乃給足と爲るを弊は漸浸の
弊不返の禍と馴致し威權下り移て武人吞吐し保建在
文の間は洎で天下の喪乱極まる痛しうらむ也然とい

魚ども今古と以て其態と殊りや其感衰と以て其則と易
ど爰に承平百年再び七五の運に復り世劍徳に帰し時
文明に属せり蓋進雄尊神孫の爲に天下を強濟し力を
竭して播殖を以て其位に來たる所苟も以て何るりも四
方金浪の貢諸蕃の互市と祈る毎年西肥に輻湊せり是
實に六合無雙の域五穀豐饒の土といふ魚一乃是
祖宗極を立て教を定天子奉りて治めよ此乃に
して其徳の感なり其業の大なる固より之を歌頌し著
し之を金石に勒し其徳を傳ふ所の亦茲に在らざるや
今吾々南山炭方に宗社を敬い特り農桑を勸めよ其

陰陽と考へ時節と授けり其耘耔収獲の方より其
法故に從事して利物の功を明しせむおやとおほし
典故照例各に百條ありて彈く述るる況や土産區
に別き五方宜と異なり其のハ之と先農圃に咨詢て
諳悉親切なるは是く危くばかくの志とくる者
復斯に辨と費ははるる凡事も凡事も郡縣と巡檢
し百姓と撫撫するハ固重事かして邊鄙窮巷或ハ文
子孝く惠化速くぬくと恐る謹て來意と神聖に存
けり歸家と舊章に探り傷動植に及び其今右に在て
宜く觀識を履き其のと圖象して出るとして美が一

由^ヨ之^シめん^スことと^ス木^ノは^ニ是^ニ亦^ニ吾^ノ 南山^ノ彦^ノ公^ノ民^ノと^ス任^ス郵^ノ農^ノ
 桑^ノと^ス勸^ス奨^スふ^ル乃^ハ微^ニ意^ニ耳^ヲ
 享^ス和^ス二^ニ年^ノ壬^ノ戌^ノ秋^ノ八^ノ月^ノ穀^ノ且^ク

臣藤原國柱謹識

奈利波比書紀○書紀即大日本書紀多以下書紀云云者

利波比皆倣此○奈利波比ハ凡國史農云業云云亦奈

人具業と訓め又稼穡耕種を訓と因うといふ一乃

万葉等ハ種波比幸波比かとの波比乃古呂○凡書紀

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

万葉等子田莊田宅田家の字並み奈利登古呂と訓也田

成形圖說卷之一

古者 伊奘氏天地と部分して人倫地理と賛育し夫と

蕃名アツケルウエルキ

なる婦と作るを教學の原と啓発し於是天が下の君を
 と定めて斯邦と歸て千五百秋瑞穂國と宣ふと既に
 天造草昧御代より何れも千五百秋ハ國祚永久の義
 千秋萬歳と云ふがごとく秋ハ百穀熟ふの時めて瑞穂
 ハ稲穂のこぼれくくを又磁登潤饒なりと云ふ又火と
 其訓かふるを天地一大環は只水火のふるり何れも統
 括相生を仰其大存ハ一の日神と歸着の大道ありを
 何れも是は斯國と後ハ大日本と文字ハ填られける
 夫土地何れハ人民何れハ人民何れハ君臣父子の道あり
 なる君臣父子の道ありとも百の種津物ふられハ以て

物と生一國と作ることを何れも生一と云ふは以て
 其物給一賜と云ふは民と命は續ぎ生と仰一が
 故に千五百秋と云ふは瑞穂の國と號むといへば其
 七聖の御代より出く美女と鑿た多し其勅のまに天
 津日嗣の天地と隆ましぬし其稲種殊に今もむふまて
 他くは勝きて美玉を神世に深記所由何れも
 と滅ぶ事くふるかと人の世とわくはむ業はいつま
 りたの義法おろそかやけりおる是 祖宗國と
 治め民と安し給ふ穀種豊饒と先より人と善い物成
 生ふるともく君さるの任とふし給ふ其の貴きこと也

よ過ぎるハ何ぞ致慮一有職傳曰有土則有人人者以
衣食住之三而立焉 二神降居礮馭盧島化成八尋之殿
居處之設於是立焉扱其次子稚産靈神と生く蠶桑と五
穀とをふせりといふ一五穀乃名初く一といふ一
なると又饑飢ふ時子倉稲魂命と生活いといふ一
いふ一といふ年子豊凶何れた也一いふ一其凶歳子多
て萬民此饑也即我身の饑りを才子切よたねの寸
の御心なりゆゑ子己ふとを饑とて後く民を救
い災子備へ給ふ此御心と下されといふ一いふ一
の饑と自饑ふといふ一其親切著明なるを思ふし

按よ飢饉と宇惠宇々云種藝と宇惠宇々云本
がなと種事とふせり是吾 邦天然の言詞訓義の妙也
之よ次でハ 日の神天ヶ下と志海一災と始と月夜見
尊と天使とて保食神の農業と見聞よせよ一こと何
月夜見尊ハ即素盞鳴尊の御事と少之天子に亞て
國代宰政と主たる大節大任の重き御事なりと吾人と
よく農れりと按察仰付らむ一と政道の第一となふ衣
食の本源なりと小官と委任し給ふる醒るる見
えり今西州の俗中秋の望月今年の新穀秋葉と一箕
里菴太右の遺志うふ子素盞鳴尊公田とせよといふ
一云々の状ありくもいふせりは 日神と云ふ

怒り給ひて盤戸イハトさして引養らば給いりるかどよ天が
下常晴トコヤシと成なりしは此時の事よふんありは是素
尊宗廟ソウモウの供給し人民と生育し給ふ大節の田地と何
一荒暴ワザキナキの御志ミコシさなるに給ふはふぎふつよにたませ
給ひて天位テンイと懸臨物ケンリンモノと療給ふよむまり是めて田農の
こと愈イヨク大切なりふはたのふる一途よ素尊ソウソウとして
出雲の國よけとつら日神再ヒカミい天が下お登給ひし
其皇身の親御ミコりて是より天下の生民と畜マシい祭祀マツリよ
薦スサつたき田穀イナと傷給ふゆゑ私恩シオンとよく公義コウギと差シを給
ふ守此等七五此聖代民と恵給ふこと只我子と一弟と

も志給いふふ不どに下民を亦父と一母とて上と戴
起キゆるけふ是蓋 祖宗人心と固結コツケツらるること牛涪ウヘよ及
ひ皇基と肇始して盤石イハシよ志給ふ所以ユエありの徳澤隆
厚なるは志給ふされば古ハ男ハ耕一女ハ織ること
此れ日用此行事とやう 天照大神ハ日位ニツイの尊タツトキよ居
て神衣カミ以織オリ志めて天神アマノカミよ献タテマツル神農氏ハ躬耒耜ミツカと作
民タミよ安やすしとせしとて竟乃舜と試シえんとて其子九男二
女とて畎畝ウンコの中ウツラよ事ツつと志給ふれ一がぬき後世
よるしと之と觀ミよ帝王の子女テイワウノコノメよ農夫の家ノウブツノイヘよ仕治
せんことあふるをたかえ蓋太右の事ハ天地の

間相去未遠と見えたるもかゝるに多かる君ハ九重
の雲の上ニ任治へどと辛苦艱難と忘まむは民間のこ
と誠志汲への寸こと吾身の疾痛も切なるは切なるは
この君ハ稼穡の業と専一に勸め治はざるされば此等
れこそ誠治をむる者百乃官と敷置はるはふつとい
ふときハ士なるは人として治るものハ人子や
かゝる乃理なれ其民と品第して物部田部工部服
部ふと見えハ是今の士農工商といふごとく志
ふに世降る俗澆らるる其君主する人ハつと及
むと百の官ニ拜らるるかどの人多く其父ハ庶民は阿

らざるハ貴富の子弟ハ未曾稼穡乃艱難と志
ふとなく恒ニ宴逸と志し意氣と張り家を肥し朝に夸
るを志して生涯の世樂と好むは遂に葛燈籠と見えは祖
宗と田舎の野翁と嘲り笑ふも況や勞と避く倦
み支那ハ千萬人の情なきハおのこ士として人と治る
の職に在るかぐら飽きて田禄と受く妻孥と育の国恩
と忘る稼穡の艱難と顧ず工商といふこと其なるは所
直らざる工夫と費さる備價と高貴ふも亦稼穡の艱
難と顧む故に農と道て工商あるもの多く或ハ農に
入るものと聞は水火の苦楚と被が如く忍び忍ぶる

虎狼と畏るるに似たる農ハ日子下里芳しそ且賤く平生
荒歉にくろくみく終身樂土の地と志すは一歩に風冷
燠蝗の厄に當りハ牛馬と鬻ぐ租に償どもやう守妻子
と質りて金と賃ともたうも刃と致してこれに賒ど
とたう守終身其田地と沽却し家と破里地と掃く一年
の調庸を充て百歳の身と失ふに及べりかくして幾の
時と経るを故郷に立帰るべき便となく或ハ心なきを
のちろ毎頼に誘は耕作のことはいやと後をく行て都
の栖居と面白くと覺えぬるまゝ果ハ市井に偏りて長
く浮浪れ徒とたうをたあはさく其跡は残りぬる田圃ハ

地と荒るるたましく其田とうけとを保てるものと
多ふ地ふとふかどよ浅ぬまは土かぬぬならしおの
つうおろ地らあしそ假令は濟しぬぬまはま田とみ
のりかく耕かちあしそ何れぬるかくばうりたりとの
今年幾人明年幾人やそ年積りそ一村みかくのた
く逐よ一邑よ及い邑より郡よ及び上下擧る皆穢僅地
苦患と免りまはさきのふとらあも只貧乏の間よためら
いけり利得れまはさそ何れぬかとさむりおのおとい
のよ出来ていしやうりのおと人とも直直なりを及て
才の煩累とそ何しきやうふハ入やうしやうは於る民

の良心もあまが為子喪ひ士乃節操とことごとが為子失ひ
宰輔の大義とことごとが為ふ七い君主とことごとが為子天よ
代く人と善ふの道と治済ふこと何れも守上下あまが
惟利を志と務むるの極にいつふ面一夫かくのぶと
涓くケシクの流涕然として樂く履くさふおるハ一物一
夕の潤は何れすともあふ履きふとてや

附言

兵農相分も文武二途とあるかと一はるるハ誰と云
ぬることなれとと古イミハいよのおれ一はつばとと後
こ一の異コトならりとと能コト己もさふ履き事ふめと三宅觀瀾

曰彼以文立我以武立學者須先識此體制此語これ要旨
と得きうとつふべ一加茂真淵曰諸臣と文官武官と分
てふハかゝの例と何の行るゝ今條ふどの時よりこのさ
きふて古とめりみふあはきと武き道とて仕むると
炎タカトめりよて既よ今の定めをて後と奈良の朝ニカドまては猶
之と美めふぬと諸臣とさしてそのふ乃八十伴ヤソノトモ緒と
と八十氏ヤソノウヂととよぬと款ととまかりさ菅原俊仍曰竊ヒソカニ替
皇和之古山水秀美五穀豐饒 神聖垂統政教畢備海
内以為自足不知復有他美也尚矣蓋有國是有土焉有土
是有人焉有人是有道焉孰國得不然亦自然而然者也迄

乎海路已開儒教釋典逐年入來猶水朝于東日出所照不
乏其人文字之學亦大行焉我先王天地之量忘彼此之
疆廣容衆美以經綸乎國俗於是乎有體制法律加于前修
者淮南子所謂同不可以相成必待異而後成王符所謂攻
玉以石洗金以鹽浣布以灰洗錦以魚皆以異攻之而成其
美者也而規模之大瞻視之尊職掌區分曲有其制故不能
各恣私智儒釋百家之業並行而不相悖遂以至典章文物
之盛孝子義僕之頻出于民間萬國莫與比也如其義氣貫
日月壯心吞英雄拔山扛鼎之力驚神泣鬼之謀實獨步乎
宇宙間是以屹立于淼漫中執如盤石矣雖有猛虎采頤沃

土之珍長鯨瀾毒滔天之濤者然不能窺於我藩籬亦世界
通國所知也耳矣苟生斯靈域者誰不自樂乎第已有異
方之學矣則不能莫異同之見也乃釋有兩部習合之妄作
爲儒有華彼夷我之非禮爲彼事彼我我於受乎彼此之
分立焉乃始有國學目爲中葉以降武將握權翼戴皇化
鎮制四夷乃又有武學目爲蓋非外乎文也以武人爲業也
吏道の文武阿ふ偏立るゝ後醍醐の帝文武二途
かゝり宣ひ〜こといみじく大日本史より志ふされ〜と
宣ふ〜とやさ〜は又兵農の分ま〜と〜は乱ま〜と
よぶ〜とと〜ふ〜わい〜と〜は物部〜と〜ハ今の

さもらひてふ物も似て文武武兼しあり古ハ武と貴れ
 しハ文官武官といふも凡の諸臣を物部とありて物部
 之八十伴男ふどハ其部属の長也又大伴大來目等の氏
 人督將元戎内兵として奉仕せむはら武事を以て
 皇朝の守護もさもらひ也後の稱を以ていふは彼中
 臣忌部五部ふどハ文官也大伴來目ふどハ武官也とあり
 又農穡と業とせむと田部といふ工匠或手組部といふ
 布帛と高と服部といふ魚鹽の利と通とを間部とい
 ふがこゝき清物部も分ち稱へしは物部の名乃稱りて
 後ハ物主物頭もといふやこハ神の世ハ大物主

命軍將たりし亦號と大名持といつる是大名物主ふ
 どとげつはものかいられ稱と後りし縁ありき 百練抄
 天皇曆仁元年二月十七日關東將 職原鈔曰侍者親王大
 軍上洛可然大名一人不漏參洛 臣以下諸家恪勤之名也又五位六位の侍とと太平記
 ハ四品以下の平侍とと又源氏ハ殿上と稱してさ
 らいと名えし侍所ふどと是より出たりき中若まで
 と禁廷の交番と勤し侍ハ奉所或歴し侍と稱しと一
 段賞賜せられ或ハ奉國に飯了と京に候ひし名或て
 帯乃先生平山武者取ふど自稱る 東鑑頼朝卿命曰京
 都警衛勤厚御家人
 等者其賞可超 令の時諸國ハ軍團とて武官とて武
 過關東進士

事練習の者と撰て兵士とし兵士の申ふて京に奉らる
 と衛士とと淋^シ士とといつり此等朝廷の守衛に侍と
 わて武士ととびらとらひと探ふふとは出来ぬ古今集東
 歌に御侍御傘ととさうせ字城跡のなれ下家ハ雨は海と
 とも^サ 梅子式ハ衛士とて擔夫もえらる申ふどろえ
 事ととと宗^バに西唐の風とと移されける頃よりい
 とよく法固軍団大毅小毅あどの官員をもとるうせ
 兵士の輩久しく居るの下より崛起せしめて又朝廷交
 番の公卿とと小番といひ此等より交番の物部といふ
 番といふしとといふ^宣 宣胤日記とと次第くはし追ま
 内々外極の小番 鎌倉の頃までハ將軍家臣の事とと
 衆候とといふ

等郎従ふといひて適はは小侍の称とといふ^{東鑑善波}
 又次郎被^召加小侍 されハ士もま進民もまれ京都に奉公せ
 依別仰也 若け本國に歸ると一等の官人の扱よとてふしり
 今此風儀吾南島に遺とふ事とあり凡農ハ其分の才
 養とて士と為といふとも高賈ハ絶て士とたりと
 成許さればらハ世の通法也^{西階の書も使工高不蓋}
 王世の時君に事する者皆臣と稱と國造のおとす國御臣
 の謂ふして陪臣と家臣といひ遂に奴隸とハ臣といふ
 は亦上の服事とらるの通稱也^{ある者して家子といひ又}
 の物にまどハ家来と侍^{轉して家来といひ中若}
 と稱せしとととえぬ然し後來世の亂に遺て法國

の民庶兵畧は堪へ軍功を昭しその輩自替て侍と称
 し勿餘の民ハ農とのこなりて下敷の者といやめり
 是兵農相分るの勢なりとき物土ふてハ通鑿唐紀云得兵
 十三萬分隸諸衛更番上下兵農之分自是始矣とあり

稻シノ 竟マシ 書紀○倉稻竟稻靈等並云宇賀乃
 美多麻也又神武紀糧名爲嚴稻竟女

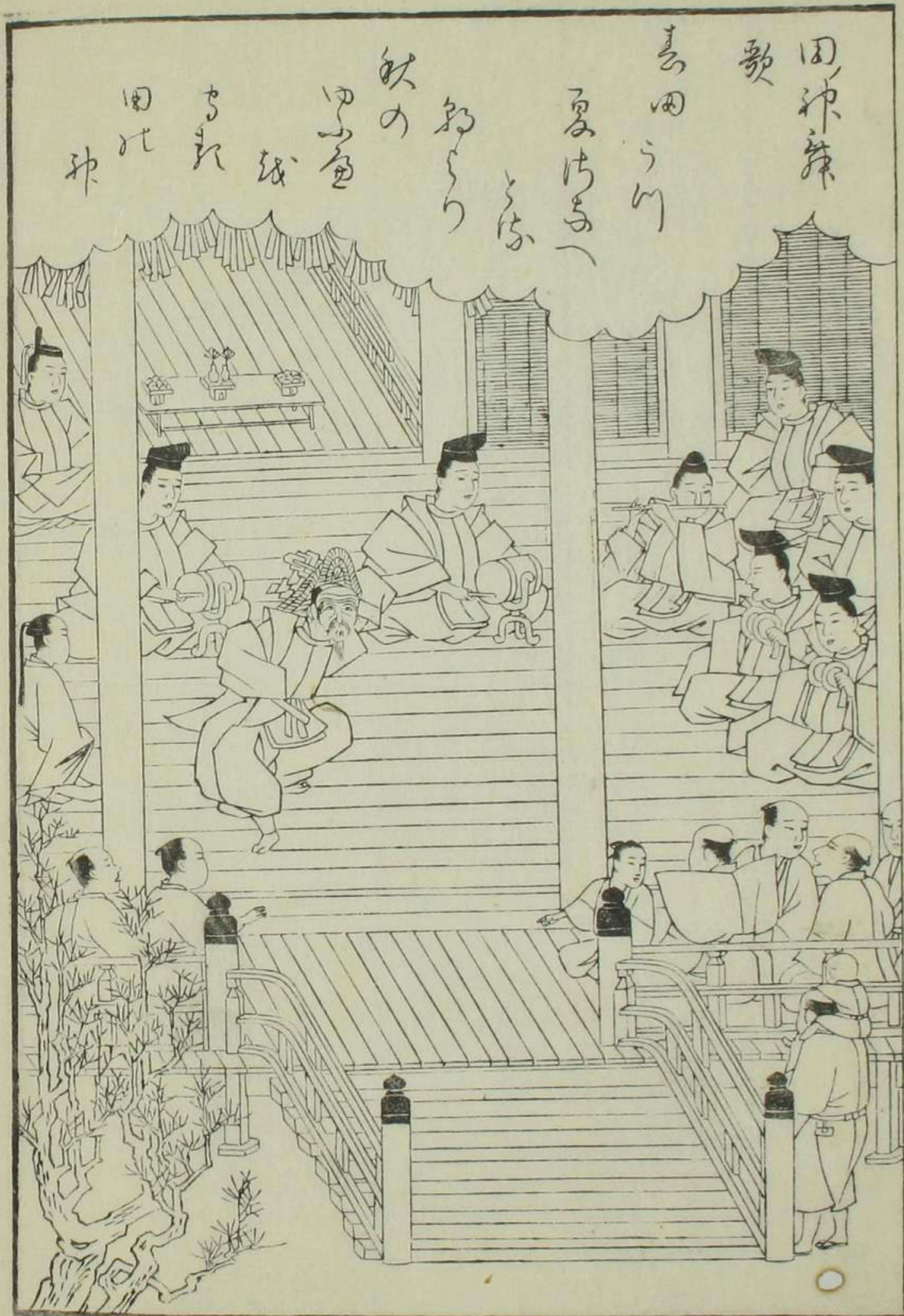
屋船豐宇氣姫ヤフチトヨウウケヒメ 古事 保食神ウケモチノカミ 書紀○和名鈔に宇氣者食
 たり是穀食と奉持りたる乃神也保猶保持也と云え

て今俗に傳授を受持て伝はれし稻荷イナリ 文徳實錄○和
 の腹中ハらのうち に生稲と云え様并サマナヒ 七しち の義也存ぞん ないふとい

御氣津神ミケツノカミ 神祕書○或三ミツ 御田神ミケノカミ 一名佐具慈即作神
 神祕書○或三ミツ 御田神ミケノカミ の訛アソビ あり一説に齋



成形圖說卷之一



田神舞
歌
春田
夏田
秋の
伊弉
田比
神

宮神亦三振神と
おろり俗字なり

農神詩話一子田畷

以上左傳稷田正也
之長五穀衆多不可偏祭
周禮設其社稷之壇而樹之
主註田神后土田正之所依也

禮祭法註
稷穀神也
蕃名未詳

先畱 禮記註先畱若神
農后畱司畱是也

田祖 詩小雅註田
祖先畱也
穀神

謹按伊勢の外宮以豐受大神と申す豊受と申す

と仰き如也し 此外宮の御事ども迄去るは伊勢の辨と
條及駿河風土記ふとと併考大殿祭祝詞曰屋船豊宇氣
べし此の係らざれば記さざれば大殿祭祝詞曰屋船豊宇氣
姫命是稻靈也夫我邦と申す瑞穂國と申す豊秋津洲と

之稱^{トシ}五穀豐饒^{モトシ}と基^{モト}本^{モト}あるの理^{コト}ありしが量^{モト}受^{モト}と以^{モト}
 て稻^{コメ}靈^{ミコト}とハヤリ^{ミコト}る 太祖^{タソ}元神^{ミコト}斯^{コト}國^{クニ}體^{ミコト}と固^{モト}有^{モト}有^{モト}りて
 千萬^{マン}歲^{サイ}の後^{ノチ}に五^イ穀^{コク}の靈^{ミコト}を以^{モト}て國^{クニ}常^{トシ}に立^タてて神^{ミコト}の道^{ミチ}を行^ユはせ侍^{サマ}
 るとくや蓋^シ稻^{コメ}魂^{ミコト}保^ホ食^シ皆^{ナラ}同^{トウ}德^{トク}の神^{ミコト}とて稻^{コメ}魂^{ミコト}ハ五^イ穀^{コク}の靈^{ミコト}
 ありて保^ホ食^シハ先^マ農^{ノウ}の耕^ウ種^{タネ}と善^{ヨシ}とる者^{モノ}也^{ナリ}是^{コト}農^{ノウ}神^{ミコト}ハ稻^{コメ}魂^{ミコト}
 の一^{ヒト}とて先^マ番^{バン}ハ保^ホ食^シと似^ニたり^シ又^{マタ}后^{ノチ}土^{ツチ}と社^{ヤシロ}神^{ミコト}と土^{ツチ}御^ミ祖^ソと
 いるとてハ大^{オホ}と洋^{ヨウ}を按^{オシ}て稻^{コメ}荷^カハ稻^{コメ}魂^{ミコト}乃^ハ社^{ヤシロ}跡^{アト}ありて山^{ヤマ}
 城^{シロ}國^{クニ}紀^キ伊^イ郡^{クニ}三^{サン}峯^{ホウ}と存^{ゾク}社^{ヤシロ}とて文^{フミ}德^{トク}實^シ錄^{ロク}に稻^{コメ}荷^カ神^{ミコト}三^{サン}前^{マエ}と
 あり本^{ホン}殿^{テン}倉^{クラ}稻^{コメ}魂^{ミコト}社^{ヤシロ}中^{ナカ}第^{ダイ}二^ニ殿^{テン}素^ス戔^サ鳴^ネ尊^{ノミ}第^{ダイ}三^{サン}殿^{テン}大^{オホ}市^シ比^ヒ賣^メ
 也^{ナリ}畿^キ内^{ノチ}志^シ曰^{イハレ}稻^{コメ}荷^カ神^{ミコト}祠^{ヒラ}山^{ヤマ}有^{アル}上^{ウヘ}中^{ナカ}下^{シモ}諸^{シロ}神^{ミコト}記^キ曰^{イハレ}元^{ゲン}明^{メイ}天^{テン}皇^{スミ}
 三^{サン}峯^{ホウ}因^ユ魏^イ三^{サン}峯^{ホウ}稻^{コメ}荷^カ或^{アル}作^ス飯^{イハ}成^ス

和^ワ銅^{ドウ}四^シ年^{ネン}二^ニ月^{ゲツ}九^ク日^{ニチ}倉^{クラ}稻^{コメ}魂^{ミコト}神^{ミコト}始^{ハジ}現^マ于^ニ伊^イ奈^ナ利^リ山^{ヤマ}以^{モト}長^{チガハ}曆^{レキ}推^シ
 之^ノ則^{スレバ}其^ノ日^{ニチ}當^マ初^{ハジメ}午^ヌ日^{ニチ}今^{イマ}不^ス用^ス九^ク日^{ニチ}而^{シテ}以^テ午^ヌ日^{ニチ}諸^{シロ}人^{ヒト}參^マ詣^ギ俗^{ソク}謂^フ
 初^{ハジメ}午^ヌ參^マ○日^{ニチ}次^ジ紀^キ事^{コト}曰^{イハレ}二^ニ月^{ゲツ}初^{ハジメ}己^キ午^ヌ日^{ニチ}稻^{コメ}荷^カ社^{ヤシロ}參^マ俗^{ソク}稱^フ初^{ハジメ}午^ヌ
 詣^ギ又^{マタ}謂^フ福^{フク}參^マ社^{ヤシロ}家^ケ毛^モ利^リ氏^シ調^{テウ}進^{シン}新^{シン}穀^{コク}今^{イマ}日^{ニチ}農^{ノウ}民^{ミン}參^マ詣^ギ特^{トク}多^タ門^{モン}
 前^{マエ}家^ケ々^々賣^ウ百^{ヒャク}穀^{コク}并^ヒ雜^ザ菜^{サイ}之^ノ種^{タネ}子^コ是^{ナリ} 本^{ホン}朝^{テウ}衣^イ食^シ祖^ソ神^{ミコト}宜^{ヨシ}子^コ尊^{ノミ}
 崇^ス之^ノ也^{ナリ}又^{マタ}曰^{イハレ}當^マ月^{ゲツ}土^{ツチ}用^ユ中^{ナカ}農^{ノウ}民^{ミン}擇^{タク}吉^{キチ}日^{ニチ}浸^{シメ}稻^{コメ}種^{タネ}於^ニ水^{ミヅ}若^シ初^{ハジメ}午^ヌ
 在^{アル}土^{ツチ}用^ユ中^{ナカ}則^{スレバ}必^{カナラ}用^ユ其^ノ日^{ニチ}也^{ナリ}今^{イマ}按^{オシ}て倉^{クラ}稻^{コメ}魂^{ミコト}と二^ニ月^{ゲツ}に祭^{マツル}する
 ハ當^マ春^{ハル}既^シに農^{ノウ}事^{コト}と興^{キョウ}行^ユの時^{トキ}あるがゆゑに仲^{ナカ}春^{ハル}の候^{トキ}小^コ
 して新^{シン}神^{ミコト}と祭^{マツル}するべし和^ワ洞^{ドウ}の頃^{トキ}より初^{ハジメ}午^ヌと用^ユす
 又^{マタ}初^{ハジメ}年^{ネン}祀^ヒの事^{コト}久^{キウ}しきより考^{カウ}えたり源^{ゲン}隆^{リウ}國^{クニ}乃^ハ今^{イマ}昔^{ソク}物^{モノ}
 語^ゴにひり二^ニ解^{カイ}乃^ハはトめ午^ヌ乃^ハ日^{ニチ}ハ京^{キョウ}中^{チュウ}の事^{コト}踐^{セン}稻^{コメ}

大鼓と鳴るも多くと多く見えたり
神笑語喧又王介甫詩子雖
非社日長聞鼓と作も
又頭碎は雨雲のいかりとつ
つらふハ雲雨して稲のみのふとつ
又劍匣の稲
荷と奉ハ昔
三條古鍛冶宗近稻荷山の埴土とて鍛冶也
事あり又小鍛冶の徑ハ明神狐と現も相槌とあり
ふらふの弟子とありて剣と造ふとと學ひるり後京子
名還さして三條とありて住る大日本史曰延元元年足
るよおのこ乃家系と記しぬ
利尊氏反而偽納款 後醍醐天皇乃還自延曆寺御華山
院三條景繁奏曰云云帝夜蒙婦人衣使内侍齎三神器從
壞垣而出景繁擁帝上馬受荷神器與忠房親王俱從之時
夜深真暗咫尺不辨帝行望路傍隱然如有祠宇顧問之忠

房對曰是稻荷祠也因作歌曰野羽玉乃暗伎夜見路尔迷
布奈利朕尔假奈年三乃燈為拜而過條有赤氣如炬起于
祠上照曜路上明如晝日隨光南行天明至穴生是聖天子
精液乃致一の所ふる
延喜三年藤原時平修造稻
荷三箇社製上中下三燈故
曰三燈東鑑文治二年頼朝卿修造稻荷社上中下正殿
拾遺集又平定文稻荷とありてありけり
社のいけり侍らざりぬ
社のかごと人ともつとるきくと
又俗傳へい稲荷乃神狐と使令とに按鎮座傳記曰
宇賀御兔神亦名專女三狐神註三狐即御饌津也古ハ食
と介といひる御食津ハ本稻荷神乃亦名小一と遂
狐と介通といひ轉して伎通といひ
は

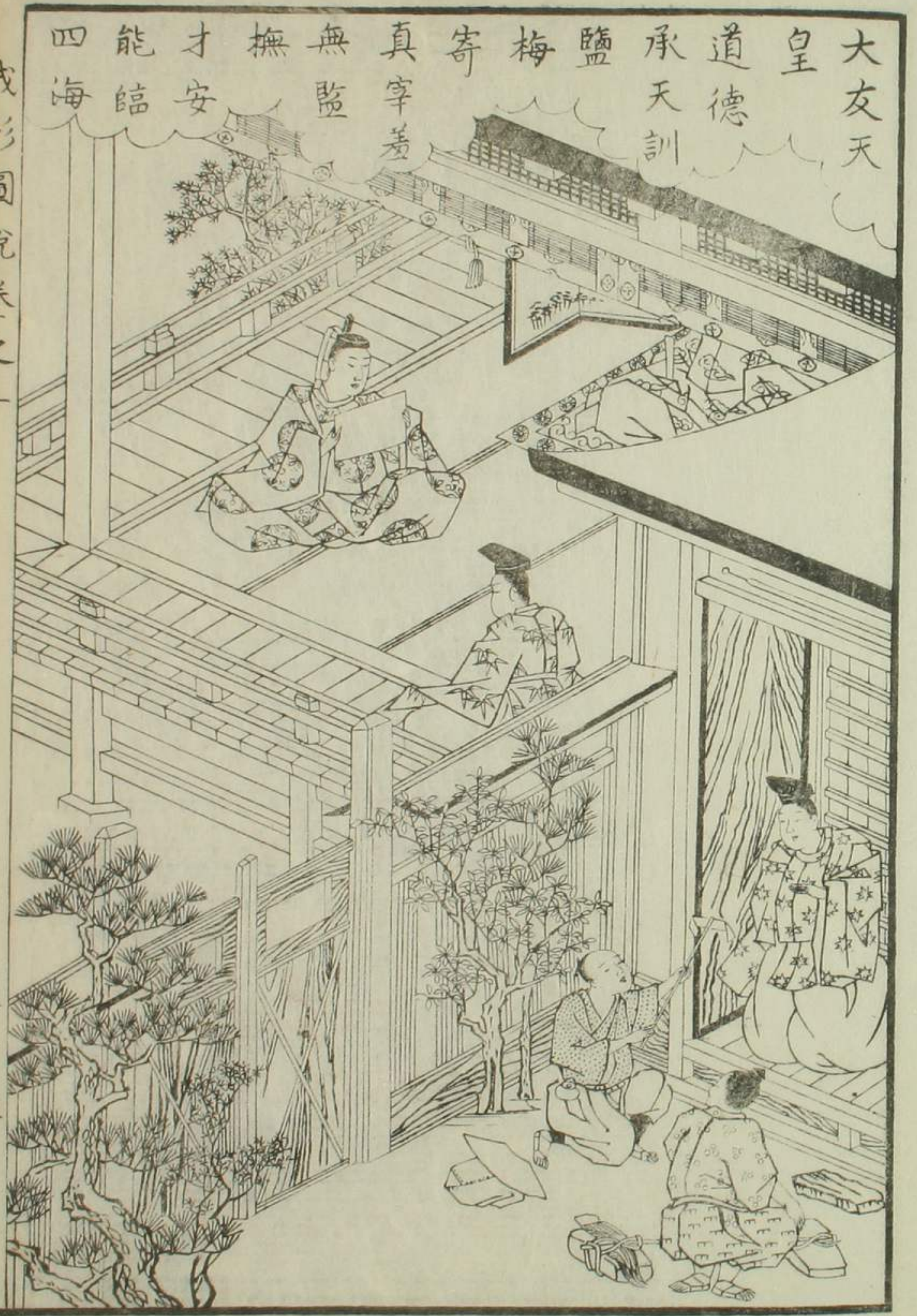
見えしり 神祇拾遺曰稲荷社勢如三狐の由縁より本
 七社中一社ハ白狐を祀らる其事陶原記ハ阿曾陶原記
 ハ強足公の記ハ狐を祀らる極く乃秘本也祐長記曰御
 食津乃字或ハ三狐を祀らる又ハ附會白赤斑之三狐以稲
 荷と稱するものハ保るり又江戸王子稲荷と云ふハ伊
 斐諾尊の皇子事解之男等と祀王子社ある所の名也又
 本朝俗談志等ハ空海が東寺の前まで稲成荷つる籠を
 懸しより稲荷が東寺の塔にせしむるなりハ東遊雜
 記曰出羽国羽黒山ハ祭神稲倉魂あり稲荷明神右左稲
 熟して民家始て刈入日稲束と一段高く置て酒ぶらぬ
 つり家内の者集りて食と命と保りの恩と謝し又豊
 年と祈りしるるなりといひ此の次より佛氏より怪誕
 と加へて諸人と感し愚るる者ハ稲荷ハ狐とおもひ居

ふあり然ども今も東都諸侯旗本の屋敷に
 稲荷の社ありて知行所の豊作と祈りしるは古乃
 風俗乃遺りしものなり蓋一抑稲荷をかく五穀の
 霊神ふらぐゆゑ今諸州香華の盛をふ蓋亦所由
 ありと云ふなり○崇神紀曰農者天下之大本也民所
 特以生也以大田田根子為祭主仍定天社國社及神地神
 戸於是五穀既成天下太平矣故稱謂御肇國天皇也と其
 祭主大田田根子といふは乃田地年穀の事也
 重られし御肇國とも稱するなり大田田根子
 氏録初夏百首俊頼の歌に初苗より玉枝と云り
 成形圖說卷之一

つて五十載イハクまのむじと一つくり紅は侍は田神祭の式
は五十籤イハクとして神酒ニワを急ふとすは大豆マメ越ワタケやて髻ウヅ華の
やうにもちやと一ハ翼津御年とて稲の名也○田神祭
の初日夫神代は十町トウの田あり保食神乃依り初し所
なる此田志一れありやうゆも志の末乃末までを治さ
るふとす御田此神さればその十町トウの秋乃たり種
甚い快く種タネの長さ一尺八寸許ハチぶらぶら其種タネの稲の
米コメあれば粒コメのふとさ一寸八分ハチぶらぶら此米コメと飯イハ
かゞは天下萬民の命と継く酒は造まば泉と湧て不
老不死乃菜とある條はつけを祝の歌のからんとある

是と服キヌめと人々ハ友の目と何つくは冬の日と春と
ら此田の神乃皮膚の袋とく何つくは冬の日と春と
ころこれしく我とちらぶや十町と初と一町田
の各口まてといとて耕と春の初より納る秋の夕
まで一粒万倍とちら神あると今日の大オホ神樂ミカヅラ 天照大
神と初昔の諸神と初清しをり神具と供し神酒とそあ
一染シメヤとそへのちり膏と色敷申とるは清まてと御田
神と清やどして見若きものはかへとハふ土乃人の命
と継く田地の神は言れら其ハとも何とすりく何れ
天照大神の勅とすけ御田とさる神あれは五穀成就

の嘉とまるとふ神樂とのこさの樂とてやせ又見ハめ何
 たる物とありしと子孫繁昌の子やとのまとい尺二
 寸よといとて申とくはめて作りたり飯といともめ
 ーりいともあり 田神舞ハ面とかけ頭ハ籠篋といひ
 どり子とふ飯匙と幣とハ持袋といひ
 めて舞禮月令季秋命冢宰舉五穀之要歲帝藉之收于神
 倉註要者租賦所入之數藉田所收歸之神倉將以供粢盛
 也漢置藉田倉供粢盛置令丞即古甸師唐宋曰神倉羣邑
 每以乙未祀先農○事物紀原云今人以歲十月農功畢里
 社致酒食以報田神因相與飲樂世謂社禮始於周人之蜡
 云



天邑君書紀○按子邑君後子村首村主ふぐえ
 田部亦田邊○書紀中村主とくり
 郡類聚國史
 稻公蓋稻置
 村首孝德紀注
 田令民部卿天武紀○延喜式
 郡司書紀
 所職東鑑○日次紀賀茂祭子田所六人掌檢
 原康富記等ふんゆ蓋大戸名主の畧
 也後一名の主とバ名主職といつり
 承久記本給人村主地下人
 承久記本給人村主地下人
 田官食貨
 農師堯舜
 農正春秋正義
 田畷毛詩
 縣吏史記
 農率月令註
 田官食貨
 稻田使者漢書
 藉田令通典
 力田常員惠帝紀
 郡方いづる名と
 莊官室町日記○今の莊屋
 名主東鑑
 村王中鑑
 萬調奉司穀と萬の調の司と云
 民部卿天武紀○延喜式
 稻置郡司以上
 郡司書紀
 田令民部卿天武紀○延喜式
 郡司書紀
 田部亦田邊○書紀中村主とくり
 郡類聚國史
 稻公蓋稻置
 村首孝德紀注
 田令民部卿天武紀○延喜式
 郡司書紀
 所職東鑑○日次紀賀茂祭子田所六人掌檢
 原康富記等ふんゆ蓋大戸名主の畧
 也後一名の主とバ名主職といつり
 承久記本給人村主地下人
 承久記本給人村主地下人
 田官食貨
 農師堯舜
 農正春秋正義
 田畷毛詩
 縣吏史記
 農率月令註
 田官食貨
 稻田使者漢書
 藉田令通典
 力田常員惠帝紀

農都尉魏志
 農圃監東都苑類
 田正會要○以上王
 農官
 郡官地官以上文
 稅官過庭錄
 租吏致富全書
 蕃名レニテメーステル
 古語云天子之職莫大於擇相宰相之職莫大於進賢宰相不以進賢為急而惟以貨食為心非為上為德為下為民之意也抑人任之の道亦難しと云
 一神代紀天照大神定天邑君と云ふ
 本朝農官乃始やをえん天書ハ蛭見ト司農の神ト天性耕農の事ト好之ト歲ト田土乃中ト浮ルガル又ハ蛭見ト乃名ト負ヒトハ一ト古者農

て平治而還文武二途より山寇海賊手と収ツカりしと
も鹵莽滅裂農戸日小相下して相遠き是と上世ミナキミよか
りて視ミるに翅壤隔のミるに孝徳紀曰大夫所使治民
能盡其治則民賴之故重其祿所以為民也ミさしは郡官ハ
必て重き職掌あり夫人の性命と立る本ハ衣食に在て
衣食乃漁ハ百姓乃勞トりて出ふ事と辨ハるに其宗ミとる司
人ト方一雇人の役人何りて年中の耕獲とゆへんかく
下知ミる民の疾苦と觀察ミる寡欲ヨクありて偏頗カマツヒエなき人柄
と擇ヒぶ農業と励精キヒンしめぬばはおれり民ミは邪慝ヨコレ乃
情コトなく年貢未進も稀ヒナリなり早潦風霜の侵ヒる蟲蝗イナヒと驅カり

除ノの没シまが頽ヒるに置キるは是ぬるに是上トる人公平小
しく私シかく正道トとて下シは五トつりふとは何れと
愚オロカ痴チるる百姓トとて其徳と感享カンキョウとふと何れと
奸ヤ智チと出デる訟獄ソウゲクと得エいと其徳ト然精出サテる農と
勤チる者トハ褒美ホウビとせ又引ヒる懶惰マンダ者トハ罪
科カと課カへ下シ奉公ホウコウと我物ワカモノと目メの前杖マエヅと
威イを畏オソて才サイと勤チにやうかれとも畢竟我物ワカモノとせざら
と多く公事常コトトシトシに緩ユルカセるなりかくの如きハ官其職
を稱カる民其業ミンノシヨと安ヤスさふとシ顯宗紀曰百姓言國
中無事吏稱其官民安其業いふ王代オウダイのためたきと

ソ、ホトハ天ガ下の万民其業茂安着ゆるハ、ソ、ホトハ其本は風俗と云ふを、ホトハ固めて風俗正しく、後礼義のありろおのり、文武帝詔曰夫禮者天地經義人俗銘範也。元明帝詔曰凡為政之道以禮為先司馬光云天子之職莫大於禮禮莫大於分分莫大於名其所謂禮義ハ衣食足るを萬民其分と安んじり起し、其分と安んじり風俗の正しきハ皇國始のつくり、乃ち、中山愛親卿の歌よ、皇國ハ淫盜の俗なき、漢書よ、人

民豊樂禮義敦行の地、續紀に載らし、神靈所扶禮義之國と云ハ、唐玄宗乃我に遣る書簡に、三國衆言三國之智、惟我國為最勝、舉國家大事係於天下者而論之、乃可以知其優劣矣、朱舜水曰、本邦乃唐山よ、其、一、百王一姓、二、天下の田地盡く公田也、三、士世祿、四、士の禄を唐山ハ為く多く貧しむれを利と逐て其風俗鄙吝多り、谷秦山曰西土之建國以篡弒為基業、是以伏羲以來更姓者三十氏、以弒書者二百事、其餘放伐紛々不可疏舉、風俗之

薄惡為何如哉○谷川士清曰夫弑君弑父非一朝一夕之
故而春秋二百四十二年間弑君三十六我國紀神武以
後四十一帝凡一千四百年矣所書惟二帝而已然俱在報
私怨而非有意于神器者也弑父春秋比々不已我國紀無
一載之者宜乎西人尚稱謂君子禮義之國也○高本紫溟
曰大御國乃人の学問を漢籍にのこす事多しぬらよ
ハあは御國志書とて伝へるべき物なかりた
ゆも人よハ必す一姫の倫るふりたの志ふこと
たのつゝわうゆり理あり物ほるびハその及ぬあは
らめて身よゆい政治め世の恥とてをへるべき物なかりた

ざかしくしそふ一ツハ君と臣君ハ臣然るるりみ
臣を志成しやまふとるる大御國ハ此道よるけ乃國
よとられつりいふ一人の教とて成んとも知るぬべし
海ゆりバみつくりたる山ゆりバ草むとりバオホキミ大皇の
魚よとて志ふめふとて志成りて計ふ成りて志成二ツハ
たやと子おやハ子然とくし子と親成慕道なる歌
色父さきにわきハまかこころ母と三ツハヨメ妻と妻と
ハかどつとめ妻ハうり成守りて居るすやう非命と
いし歌よまじとハとよいまあハりよめふし何と
はな成まてとハかしま成りてはまは解し何と四
よハ長といと成るきおと成はよふし幼ハ志しけ

持の體或不失者何事といへどと乱雜及覆の際君と棄
て恩と忘も敵子降して義と持くその往く是阿里夫千
萬人今日父母と將養^{ヤシナフ}その皆おのく其國乃重恩と戴
くま在り寝てと寤くも不忘ま^レ君恩乃一な
らばや林鸞峯曰夫臣之於君雖有周公之功亦是我職分
也と後世^レ庶^レ恥の心滴^{ツク}僅^ニ尺寸^ノ功ととく己の力と
眼前の手柄と考ふして妾子爵禄と干ぬ褒賞と希ふと
の少か^レば其弊おのこ^ツ下に流^レて農夫^ニ及び稼穡^ノ乃
道と考^レ己の作^レ得^レと貪^レり有^レととく無^クと^レ豊熟と偽^レて凶
荒と称^レふが如き又郡吏を^レ保^レとのと安愉^レし^レて行^レ義^ニ

か^レざれば百姓と教化と保^レる^レ又今日田と耕^レ
穀と納^レふと皆主^レ君主^レ人への奉^レ公^レととおも^レば今夫
皇國^ニと魚鹽^ノ乃^レ利^レ鳥獸^ノの肉山海の産^レも^レ美^レ門^ノた^レと
の^レ日^ノ出^レて起^レき井と鑿^キて飲^レむ誰^レ乃^レ力^ヲとりお^レり^レ也
き王^ニ通^ニ曰^ク幸^ニ此^ニ御國^ニ人^トと生^レきて^レ死^レて^レ祀^レ福^トは^レ朝夕
も飽^レま^レて食^レま^レる^レは^レ皇神^ノ乃^レ恩^ト頼^レ成^レお^レも^レ
其^レ保^レる^レも^レお^レも^レ也^ノの^レ日^ノも^レな^レく^レて^レ色^ノ次^ハいと
とく心の^レ流^レる^レも^レ此^ニ阿^レ連^ノ土^ノ佐^ノの川谷子^ノ或^レ人の雜
話^ト難^レせ^レ末^ニ生^レきて^レ死^レて^レ阿^レ國^トと志^レぬ^レも^レ交
う^レの^レの^レ阿^レ人^トと保^レると^レ美^ニも^レあ^レる^レ阿^レり^テ

りずゆの里海までは何もおのまハ急懶て他国と羨み吾
 君とは恨をくんとと實に憎む屋きの甚しきおを嘗て
 毛路こしの土俗或沖繩人子守ぬまは農商とも子晨ハ
 雞の初声を起さ出て各世の宮と競い家の業は勤む
 ぶ也沖繩人おとハ物静けきさほな終まかくに終るる
 一昨ハ月日は冥きがうたやうに急しく物と曇く起が
 け月と安りま嘗てがうくおん何るも一ツつる凡物
 おとに油断して質純きは田舎人の習い也九重の雲乃
 上人の志は都會の地は住めふハ賢さ愚さと身と律
 一人と令らるるも功をなれおとさ一敏なる邊鄙のこ

のは冬ハ朔餉に向ふまどハ埋火のこもとに躊躇一復ハ
 夜つとく更るまで徒行をたけ何事をもきのふるおの日
 成曠くこして明日川の閑瀬常かよは為き氷成踏が上
 なるかげろふ地露の命ハ流るるも乃原に歸らざゆと
 おりのいもわらざらおとをなるとい一記事おのり是等
 毛亦禮義と存らるやうに衣食足らばやうに其本を被
 るは即農官の職分なまは具責むて大切なるおととん
 也或書よむり筑後柳川の老長小野和泉立花三河
 二攻られし時兩年奇功の威を争はる軍法一子定ら
 便抜合志のふとつとくさ一この柳川方制を失ひおと

して之と彼とよ工ハ高よ志つて況や農とや後女道よ
 農稼と賤して金浪と貴ふより人情日々に利路子趨き
 鈿銖と己子得と以瑋と男女其業と顛倒一鄰下門戸
 と持と分の遠風は何とぞればおの妻女と私窠と
 して敬て恥ぶ分の汗俗よむるものあり先王其然と
 志るや先農耕法重一質樸と導きと獨り衣食と事と
 るよハあつて風俗と維持一礼義と存り法以て政あつ
 存と志るふ也古語云帝王之學匪藝匪文畏天之威主德
 為最 後鳥羽天皇の大御歌おのふおどろぐ下と踏
 已多く道何分せど人子志くせし嗟乎天下の否泰ハ

上一人の心よ存つて百姓の窮樂之は係まり君宰を
 らむ人々其不どくは從て治安の道と懋むと豈翹一
 國一城の福も〜ひや抑 皇國の至幸とや

大御寶

古事記○書紀ハ人民億兆衆庶百姓蒼生黔首等並
 訓蓋古は良賤に記しての迹標と云古事
 記傳引江家次第曰為公御財御調物備進礼こり是
 於保美多加良云言の正しく見えたりやといへ

多美 即民不古語拾遺は田人と書るも采衣物浴多
 義より臣亦於美と訓は蓋大民より皆君子對し
 君ハ諾册より出て君は形者臣とも民とも稱し
 耕人同上 田子書紀○多く教み承り任二集片山の
 のく〜ぬつ〜人今擔桶と田子〜ふと田子此持を
 のふれハ也也包丁ハ存包丁のつ〜ふのなれば包

丁乃多るべき哉やぐく包丁とのらふがごとく梅は海
 變志云民戸強壯可教勸者謂之田子田丁と見えたり
 佃人上出雲風 賤子 万葉集〇志の反とすは鮮民とい
 けハ助辞あり名稱の非を芳雲集にあり立て田つ
 らの里より多むむとこ酒ある春のおのぐらよとの
 民種歌よ草乃義の船て民乃草葉民此千葉ふとよめ
 なびく子世 皇州解猶公民とらふの州葉を年阿れだ君よだ
 乃秋まて 野民なりと注せハ切らるる
 大戸名 百姓 出雲風 佐久人 佐ハ田稼の大名洋
 農夫 毛詩 農民 前漢 農人 歸去 耘夫 唐書亦 田民 文説
 〇即毗也 種戸 宋 租戸 綱目 稅戸 糧戸 課戸
 亦田父 耕戸 經國史 耕人 大蔵 佃戸 訓蒙
 以上文 獻通考 耕戸 雄畧 耕人 一覽 佃戸 字會
 蕃名 アツケルマン 亦ラントマン

大戸名ハ孝徳紀ハ村首とある首とて名ハ主と海小同
 紀ハ凡戸主皆以家為之と見えて一戸々々の主と泛稱
 つつあり 豊太商の令書とおとる百姓と二よふ 出雲風土
 記ハ天御領田の長ととつり 又孝徳紀ハ五十戸為
 故ハ万葉ハ五十 戸主ハ後ハ戸頭と書せり 元正紀延喜
 戸長と書り 按ハ冊府元龜云天下百姓 又蝦夷の地ハ郡主地頭と云者
 丈夫戸頭者宜各賜爵一級 又蝦夷の地ハ郡主地頭と云者
 之なく其部落一村ハ於登奈と稱す酋長ありて事を執
 りと云於登奈ハ即大戸名とて上世の遺稱あるべし凡大
 戸名ハ某門の某と名呼て各田所ハ就て門名あり其門戸
 の主あると大戸名頭とせり又いふハ田主あり 田主 豊後

清耕 織圖 土膏 初動 正春 暗野 老支 節早 課耕 辛苦 田家 惟穡 事隴 辺時 聽叱 牛聲



源氏 神 ぬき かつげ かり 田子 ぬき ぶど





沖繩にて壘イリとカに
 といふは十人許イリと
 とし前後に立イリと
 てのと多く之と
 揚土と云はれ之と
 寄嶽と云はれ之と
 とて歌舞イリと
 めその器イリと
 慰の今イリと
 の式イリと
 凡の沖イリと
 繩の結イリと
 髪男イリと
 かしらすと
 云はれはか
 らはれはか
 云はれはか
 のき風イリと
 比俗乃おとし

風土記榮花物語等にも見ゆ按イリ網目宋紀云以公田給
 還田主三場云今之民田至數千頃者有之矣則仲容之家
 必以万數皆服後又大戸名頭と畧して名頭ともいり
 於田主之家
 其名頭より析戸ワカサレいまも別ワカサレ門名と有モク大戸名頭の田
 と班ワカサレち授て佃タテものタテと名子ナコとナコ小百姓下作とも呼イリべり
 万葉子大名兒イリとイリり按イリ訓蒙字會云農俗大戸名
 称仲戸謂治人之田者是名子小百姓イリと似イリり
 ハイリ長門イリなり名子ハ次門イリなり今之と總て大戸名と
 いふイリとよイリあイリり武州橋樹郡イリをイリて名主と仲屋イリと云
 仲屋イリより別イリつらと新屋イリと云新屋イリより別イリつらと生屋イリと
 云是沖繩イリにて平民百姓の事と新屋イリとつらイリと似て尚イリき
 逸名イリありべイリ屋イリと即イリ右イリ戸イリ今又士類の一姓イリより出イリ

自析^{カキ}生て別^{カキ}ニ氏を称して名字とすよ凡名ハ郷より
 小く若一郡一郷の中より一名を分領^{カキ}されバ其名の字
 と取て自稱^{カキ}也夫百姓とハ天下凡民仕官せどて禄位
 なきもの^{オホナ}泛^{オホナ}称あり書紀ニ部曲^{カキ}とらわと民と何と
 かさべと云意より藩屏とあるとさせり尾張風土記ニ上
 農中農下農の品目^{レナ}あり其地理の上中下乃田賦ニ就て
 定^{モロコシ}しあるべし^{モロコシ}ハ西土のた^{モロコシ}と仕まば士とあり
 仕へざれむ農とあり^{モロコシ}申ふ^{モロコシ}遂ニ農夫と呼て百姓と
 称^{モロコシ}せり書堯典ニ平章百姓茶註百姓畿内民庶也といふを黎民ニ分て解^{モロコシ}りたり文武天
 皇詔曰軒冕之羣受代耕之禄有秩之類无妨於民農夫天

子の冕冠と正して天高^{カキ}脚位^{カキ}ニ臨^{カキ}め^{カキ}や農夫の耒耜と
 執て田疇^{カキ}と耕^{カキ}しぬると其體^{カキ}其事^{カキ}大^{カキ}也天淵とち^{カキ}ぐい^{カキ}せ
 ると^{カキ}や^{カキ}も^{カキ}其^{カキ}天職^{カキ}と奉^{カキ}て人と治め人と養ふ乃道^{カキ}い^{カキ}げ
 たり^{カキ}勞^{カキ}い^{カキ}づ^{カキ}ま^{カキ}の^{カキ}供^{カキ}と^{カキ}あ^{カキ}らん^{カキ}や凡百姓の色度ハ都鄙^{カキ}富と分^{カキ}て天下
類相^{カキ}肖^{カキ}するものハ乃人生て自然の容貌あり而して之
ニ冠裳と加^{カキ}へ飾る^{カキ}玉^{カキ}て始て居^{カキ}養^{カキ}状^{カキ}貌^{カキ}大^{カキ}ニ異^{カキ}い^{カキ}上下
と分てるもの^{カキ}の^{カキ}人^{カキ}作^{カキ}り^{カキ}あ^{カキ}り^{カキ}る^{カキ}百姓^{カキ}業^{カキ}曰^{カキ}凡^{カキ}百姓^{カキ}ハ^{カキ}質^{カキ}素^{カキ}
實^{カキ}義^{カキ}と存^{カキ}り^{カキ}國^{カキ}主^{カキ}の^{カキ}制^{カキ}禁^{カキ}と^{カキ}犯^{カキ}す^{カキ}る^{カキ}は^{カキ}農^{カキ}業^{カキ}急^{カキ}か^{カキ}く
格^{カキ}ニ^{カキ}米^{カキ}麦^{カキ}粟^{カキ}實^{カキ}の^{カキ}生^{カキ}熟^{カキ}と^{カキ}り^{カキ}ち^{カキ}り^{カキ}と^{カキ}る^{カキ}は^{カキ}花^{カキ}江^{カキ}葉^{カキ}も^{カキ}
は^{カキ}り^{カキ}て^{カキ}う^{カキ}付^{カキ}た^{カキ}く^{カキ}心^{カキ}と^{カキ}際^{カキ}じ^{カキ}ふ^{カキ}と^{カキ}常^{カキ}ニ^{カキ}多^{カキ}か^{カキ}く^{カキ}ん^{カキ}都^{カキ}て
人^{カキ}界^{カキ}の^{カキ}樂^{カキ}ハ^{カキ}若^{カキ}中^{カキ}ニ^{カキ}あり^{カキ}若^{カキ}とい^{カキ}ふ^{カキ}と^{カキ}阿^{カキ}若^{カキ}若^{カキ}い
よ^{カキ}い^{カキ}と^{カキ}増^{カキ}り^{カキ}若^{カキ}ハ^{カキ}人^{カキ}間^{カキ}の^{カキ}常^{カキ}任^{カキ}り^{カキ}て^{カキ}人^{カキ}界^{カキ}の^{カキ}假^{カキ}客^{カキ}あり^{カキ}と^{カキ}お
よ^{カキ}い^{カキ}と^{カキ}苦^{カキ}と^{カキ}捨^{カキ}ん^{カキ}と^{カキ}や^{カキ}は^{カキ}樂^{カキ}求^{カキ}ん^{カキ}と^{カキ}せ^{カキ}ざ^{カキ}れ^{カキ}ハ^{カキ}若^{カキ}お^{カキ}の^{カキ}門^{カキ}か
ら^{カキ}樂^{カキ}と^{カキ}愛^{カキ}と^{カキ}ほ^{カキ}り^{カキ}て^{カキ}農^{カキ}人^{カキ}ハ^{カキ}田^{カキ}屋^{カキ}山^{カキ}家^{カキ}の^{カキ}靜^{カキ}あり^{カキ}と^{カキ}任^{カキ}り^{カキ}て
る^{カキ}の^{カキ}氣^{カキ}質^{カキ}古^{カキ}人^{カキ}の^{カキ}風^{カキ}子^{カキ}似^{カキ}たり^{カキ}と^{カキ}多^{カキ}し^{カキ}と^{カキ}そ^{カキ}の^{カキ}風^{カキ}俗^{カキ}と^{カキ}失^{カキ}ふ^{カキ}と^{カキ}あ
と^{カキ}あ^{カキ}く^{カキ}ん^{カキ}バ^{カキ}道^{カキ}德^{カキ}の^{カキ}君^{カキ}子^{カキ}と^{カキ}農^{カキ}家^{カキ}と^{カキ}と^{カキ}存^{カキ}ぬ^{カキ}屋^{カキ}と^{カキ}あ^{カキ}る^{カキ}

和漢共廣才德智の人農民より出くべきもの多し古
 歌に植てんよ花乃とどくぬ里とふいふかきふかハ
 いやー志くふ子農夫常不其天職と奉て上供供事
 一日とて急務所なり若急まば有司と下使と天子督
 責嚴肅小して僅に免るよふあり志くれバ上天
 子乃命令と奉て代く天職と任らゆ者孰ハ其職
 と忘る事急るおと豈得危らん哉此道ハ國民を治
 ふハ其土の入税幾許あり其出費と之を稱くいくむく
 分付べきと量て常に驕泰をいよしめ淳素と存せし
 天職と奉行ふべき理あり志くは天のやいと
 君宰の不職と咎て實害文臻て災下民に及り
魏志云
 天地神

明以王為子也政
 有不當則見災謹
 宣化天皇詔曰食者天下之本也黃金
 萬貫不可療飢白玉千箱何能救冷也君ハ農を治め
 農を君と養ふとのふして天下の重寶分付べし
 我先王其志くふを知るや百姓人民と以大寶とを寶
 ハ田力ありま 祖宗愛とる者ハ惟民田ふして賤と
 る所ハ則金玉を儲と身と存て大の孫謀と貽る此乃
 皇祚無疆の基本にして亦以て五穀豐衍乃隲區と
 るゆ多ん也 詩大雅稼穡惟寶又漢書明君貴五穀而賤金
 玉○范子計然云五穀者萬民之命國之重寶
 也ウの唐宋元明乃篡奪常と一國祚乃永命と保ぎふハ
 皆其の祖宗其基本堅固なるはるよ何とや近頃康熙

形圖說卷之一終

以三拾冊爲全部

主鹿兒島縣民

野村彦四郎

